

子どもの貧困対策について

2018年3月に掛川市子どもの貧困対策計画が策定された。子どもの貧困は、虐待や育児放棄、いじめなど、様々な問題につながる可能性があるとともに、教育格差によって大きな社会的損失となる恐れもある。これからの人口減少社会に立ち向かうためにも子どもの貧困対策は重要な課題である。また、新型コロナウイルスの影響により、支援の必要な子育て世帯は増加傾向にある。

掛川市としても、子どもの貧困を見逃さない体制を強化し、子どもの居場所づくりを積極的に推進していくべきである。また、保護者の経済的負担軽減のため、就学援助制度についても対象者が利用しやすくなるよう改善する必要がある。

このようなことから、掛川市子どもの貧困対策計画改定においては、数値目標を明示した実効性のある計画とし、子どもの貧困対策を充実させ、生まれ育った家庭の経済状況に関わらず、全ての子どもたちが未来に希望を持つ持続可能な掛川市をつくるため、以下のとおり提言する。

- ① こども家庭総合支援室に福祉職を追加配置するなど、庁内体制の強化に取り組むこと。
- ② SDGs プラットフォームの仕組みを活用し、子ども食堂や学習支援等の子どもの居場所づくりを担うキーパーソンの育成を図ること。
- ③ 子どもの居場所を運営する団体への市独自支援を検討すること。
- ④ 就学援助制度の周知方法及び申請方法の改善を図るとともに、制度内容の充実に努めること。
- ⑤ 学校指定の学用品の自由化やリユースを促進し、保護者の経済的負担の軽減を図ること。

全会一致で可決

ロシア連邦によるウクライナ 侵攻に断固抗議する決議

ロシア連邦は、去る2月24日、国際的な警鐘と自重を求める声を無視してウクライナへの軍事侵攻を開始した。これは国連憲章と国際法に違反し、国際社会の平和と安全を著しく損なう明白な侵略行為であり、非核平和都市宣言自治体として、断じて容認することはできない。

よって、掛川市議会は、全世界が一体となって、世界平和の実現に向け全力を挙げて取り組むよう強く訴えるとともに、世界の恒久平和を願い断固たる決意でロシア連邦のウクライナへの軍事侵攻に強く抗議し、ただちに戦闘を停止しウクライナから軍を撤退させることを強く求める。

以上、決議する。

令和4年3月9日

掛川市議会

